



とよ だ みつ はる  
**豊田 光治**

にほんきょうさんとうつしぎだん  
**日本共産党津市議団**

**災害時の被害調査に小型無人機の導入を**

**問** 小型無人機（ドローン）は、安全性の問題や法規制などはあるものの、がけ崩れなどの目視点検や、道路冠水等被害状況の早期把握に効果があるのではないかと。各地の自治体や民間団体などで研究や活用が始まっており、費用もそれほどかからないといわれているが、津市の現状はどうか。

**答** 小型無人機は、規制がかなり厳しくなってきたが、経済的・人力的負担がヘリコプターよりもはるかに少なく、操作が簡単で、機体自体も低価格になり機能も向上している。このことから、災害時の導入に向けて実証実験を行っている自治体もある。

現在津市では、災害・消防活動等のために設置した高所カメラや、タブレットを活用した映像配信システムによって、情報収集に努めているが、今後は、その運用方法や補助金の活用について調査を進め、小型無人機の実証実験をしている市町の意見も参考にしながら、検討していきたい。

●その他の質疑・質問●

- 広域の停電に備えて、太陽光発電方式街灯の効率的な設置を
- 避難所のきめ細かな運営とバリアフリー化を
- 河川の増水や氾濫などの遠隔監視は進んでいるか
- ゼロ歳児も含む多くの子どもたちを預かる保育園などの災害避難は、自前の訓練に加え、外部からの救援なども事前に協議せよ など



▲災害状況把握や予防に役立つ小型無人飛行機



すぎ たに いく お  
**杉谷 育生**

しん わ かい  
**津和会**

**子育て支援のために保育料の減額と無料化を**

**問** 子どもは地球の宝であり、子どもへの投資は、将来への投資である。少子化に歯止めをかけるのであれば、国の制度にとらわれず、「条件なしでの、保育料の第2子減額と第3子無料化」という津市独自の制度をつくっていくべきである。

親は、津市で子どもを安心して産み育てられるのであれば、津市に引っ越してでも育てたいと思うのではないかと。

**答** 保育料の多子軽減は、小学校就学前の範囲で、保育所等を利用している子どもがいる場合、年齢の高い方から2番目の子どもが半額に、3番目の子どもが無料になるという制度である。さらに国は、幼児教育の段階的無料化の取り組みとして、年収360万円未満相当の世帯について、年齢制限を撤廃したところである。また、多子軽減ではなく保育料全体についてはあるが、津市独自の制度として、国が定める基準に対して、平均68%程度となるように保育料を設定している。育てやすい環境を整えるという意味で、利用者負担の軽減の取り組みは重要であることから、国の動向を十分に踏まえながら、今後もきめ細かく、新しい保育料のあり方を考えていきたい。

●その他の質疑・質問●

- 優良農地の保全管理について、農業委員と農地利用最適化推進委員の連携を推進すべきでは
- 芸濃町岡本及び芸濃町椋本地内道路修繕工事の契約行為について、単独で行うのか、合算で行うのか。また、状況に応じて随意契約などを適正にすべきでは



▲市内の保育園の様子。将来の宝に投資を